資料１－１

まちづくりコーディネーターの活動状況について　（１月２１日現在）

１　活動報告

≪令和６年度実績　１４件≫

関係先	内容	人数	自主活動
自治会	①自治会長との意見交換（築地） 現状、自治会活動業務が自治会長に集中しており、地区全体で協力して活動を進められる体制とするため、築地地区の定例会での問題提起に協力した。	2	
	②刈谷いっぷく茶屋初陣（刈谷西部） 「お宝さがしウォーキング」にて亀城公園コネクドームに出展し、参加者が銀座商店街の歴史を振り返りながらお茶を楽しむ企画を実施。 ※第１回まちコ交流会にて参加者から出た企画を「まちコくらぶカフェ」にて具体化した。	6	○
市	③「まちづくり講座・学習編」（市民協働課） グループワークに市民役として参加	6	
	④ファンドレポートの作成（市民協働課） 取材先：SUHARA MUSIC FES	2	
	⑤ファンドレポートの作成（市民協働課） 取材先：ふれあい泉田朝市（こどもイベント）	2	
	⑥「協働のまつり場」（市民協働課） 公園緑地課所管の公園等愛護会活動をテーマに、地域全体で公園愛護会活動に取り組むため、広報の仕方について関係団体・関係各課とともに意見交換をした。	3	
	⑦東刈谷地区へのヒアリング（市民協働課） まちづくりステップアップ講座第２回「ヒアリング、インタビュー技術」の学びの実践	4	
	⑧小山地区恩田４組へのヒアリング（市民協働課） まちづくりステップアップ講座第２回「ヒアリング、インタビュー技術」の学びの実践	2	
	⑨認知症サポーターステップアップ講座のファシリテーション（長寿課）	2	
	⑩燎-kagaribi-への出展（まちづくり推進課） 明治・大正の刈谷のまちづくりの歴史を辿るトークイベントの実施	4	○

	⑪かりや夢ファンド補助金公開審査会でのまちコくらぶ mini（市民協働課） 審議時間にて申請団体及び来場者と交流	3	○
その他団体	⑫実行委員会のファシリテーション（ワールドスマイルガーデン一ツ木）	2	
	⑬いきいきクラブ会長一日研修のファシリテーション（いきいきクラブ）	2	
	⑭「わがまちのつむぎ場」出展 （刈谷市民ボランティア活動センター） 参加団体同士の交流	4	○
合計		４４	4

２　まちコ交流会【詳細：資料１－２参照】

（１）第１回

日　時：令和６年６月２２日（土）１５：１５～１７：３０

場　所：刈谷市民ボランティア活動センター

参加者：まちコ１０人、一般７人（市民活動団体、NPO 法人、自営業ほか）、

世話人１人、市まちづくり推進課２人　計２０人

内　容：第１部　まちコと交流

第２部　参加者同士が知り合う・つながる

（２）第２回

日　時：令和６年１１月４日（月・祝）１３：３０～１６：３０

場　所：刈谷市民ボランティア活動センター

参加者：まちコ９人、一般８人（NPO 法人、学生ほか）、

世話人１人、市まちづくり推進課１人　計１９人

内　容：第１部　まちとまちコの交流

第２部　参加者同士が知り合う・つながる

３　つなぎの学び舎・リカレント　まちづくりステップアップ講座

【詳細：資料１－３参照】

既に「まちづくり活動をしている人（まちコ含む)」が実践に役立つ力を高めるための講座。今年度は４月～３月の全６回で、単発参加可能。１２月末時点で第４回まで開講している。

※まちづくりコーディネーター養成講座は、昨年度より基礎編・実践編の２か年に渡る仕組みを一本化し、１年の受講で修了できるよう再編された（隔年開催)。

（１）第１回【まちコ限定】令和６年４月２０日（土）

「まちコの総会をやろう！企画会議～会議のデザイン、場づくりの準備～」

まちコの総会（仮）の開催を題材に、企画会議を行いながら、場のデザインについて学んだ。参加者６人。６月に実施したまちコ交流会「まちとまちコの交流会」の企画書が出来上がった。

（２）第２回　令和６年５月２５日（土）

「ヒアリング、インタビュー技術を学ぶ」

「聴く」ことについて体験から学ぶとともに、ヒアリングやインタビューの準備、また心掛けることについても学んだ。参加者１１人（うちまちコ１０人)。

（３）第３回　令和６年６月２９日（土）

「チラシの作り方～canva（キャンバ）の使い方を学ぼう！～」

「canva（キャンバ)」の使い方及び効果的なチラシの作成方法について学んだ。参加者６人（全員まちコ)。

（４）第４回　令和６年１２月１４日（土）

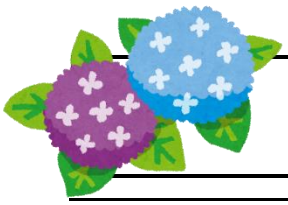
「会議のデザイン、場づくりの準備」

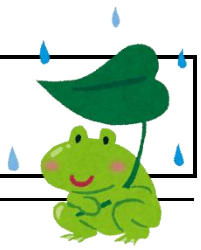
効果的な会議の場づくりについて学んだ。参加者１０人（うちまちコ８人)。

（５）第５回【まちコ限定】令和７年２月１日（土）

「実行委員企画会議　会議のデザイン、場づくりの準備～まちコ交流会を企画しよう！～」

（６）第６回　令和７年３月１日（土)「課題の整理・構造化」





まちづくりコーディネーター交流会　令和６年度 第１回

まちとまちコの交流会

●日 時　2024 年 6 月 22 日(土)15:15～17:30
●会 場　刈谷市民ボランティア活動センター
●参加者　20名（まちコ10名、一般7名、世話人1名、市まちづくり推進課2名）
●進 行　まちコ 原 保宏さん
●タイムキープ　まちコ 鈴木小枝さん
●発 表　まちコ 松浦章子さん、石田彰宏さん

●プログラム
1.第１部 まちコと交流
2.第２部 参加者同士が知り合う・つながる

●ねらい
・刈谷市に縁ある皆さんに「まちコ」を知っていただく
・刈谷市に縁ある皆さんと「まちコ」がつながる

■開会あいさつ （市民協働課 加藤）

・令和６年度 第１回まちコ交流会では、まちコのみなさんが「市民のみなさんにまちコを知ってもらいたい」という想いから、一から作り上げてきました。まちコの存在と活動を知っていただき、交流を通してまちづくりのヒントや仲間づくりのキッカケになれば幸いです。今後の活動につながることを願っております。

1. 第１部 まちコと交流

■アイスブレイク（進行：原 保宏さん）

・今の気持ちを色で表した場合、どのような色になるのかをグループ内で自己紹介と共に話し合いました。

■まちコとは？ （鈴木小枝さん）

・まちづくりコーディネーターを省略して「まちコ」と言います。まちコは、まちのみなさんがいきいきと楽しくまちづくりをしたいという気持ちを応援し、地域団体、NPO、行政等が何かを行いたいときに関係者をつなぐ役割です。活動としては、住民会議の進行役にてやりたいことを導くことや、イベントをレポートに起こして PR のお手伝いをするなど、まちのみなさんが主体的に動けるようにお手伝いしています。

■まちコの活動事例発表

●まちコ３期生 松浦章子さん

・まちコはどんな人が行っているのか、自己紹介を兼ねてお話させていただきます。市民センターに勤務している傍ら、裏千家茶道を行う、まち大好きな人です。職務にて、地域包括ケアシステムの構築が課題となり、長く住み続けるためにどのようなことをしなければならないのか、を考える必要が出てきました。そのとき、「つなぎの学び舎」を知り、受講後にまちコに登録して８年目になります。
・市民協働課からの紹介で、小山地区住民会議、高須地区住民会議など、会議の進行役を行ってきました。他にも、まちコ交流会への参加や企画・運営のお手伝い、「かりや夢ファンド補助金」の採択団体への取材とレポート作成を行っています。
・まちコはプロではありません。自ら学びながら活動を行っています。どのようにしたら、まちコの存在や活動が社会に伝わるのかを考え、学び中です。また、どんな活動ができるのかをまちコとして考えながら、人と人が上手く関わり助け合う力を出し合えるまちになれたらと思います。

●まちコ６期生　石田彰宏さん

・まちコ　２　年目となります。まちコとしての活動は、小山自治会の勉強会、ファンドレポートの作成を行っています。その他、スポーツ推進委員、カリマチ会議に参加しています。様々なまちづくり活動に関わりたいという想いから活動をしています。
・小山自治会の勉強会では、マンダラートを活用し、地域の課題を出し合い、具体的な解決に向けて to do リストを作成することまでを １ 年間かけて行いました。勉強会を行う中で、話し合いだけではなく実際に行動につながったことが成果としてあったのではないかと感じました。
・これからは、まちづくり活動の伴走支援を行いたいと思っています。また、自身も活動を行う中で支え手の必要性を感じていたため、支えられる側になれること、まちづくり活動を訪ねて人と人をつなぐご縁を作りたいと思っています。

■まちコの事例発表を聞き、感想と意見交換　（進行：小森義史さん）

・グループの中で自己紹介を行い、事例発表の感想と意見交換を行いました。

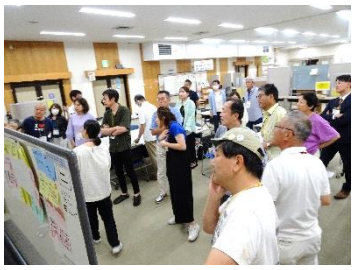
●発表

A グループ	まちコが何人いるのか、どうしたらまちコになれるのか、活動の時間や日々の仕事にどのように活かせるのかを話しました。ファシリテーター以外での活動や、まちコの活動以外でまちづくり活動を行っている話などが出てきました。
B グループ	発表を聞いて、まちコがわかりにくい、説明を受けても分からないと話しており、様々な活動を行っているため、わかりにくいのだと発見しました。また、まちコをされる人は様々な活動を目いっぱい行っている人、集うことが好きな人が集まっているのかな、と思っています。刈谷愛がある人、「なにかやりたい」「やりたい人を支えたい」という人です。重原地区にてまちコ派遣を依頼した際に、色んな意見をまとめること、１人１人を話ができる環境づくりができてすごい!と思い、自分の地域でもできたらな、と思い、まちコに参加しています。
C グループ	発表者が楽しそうということと、まちコ活動に対する疑問に答えていました。トラブルはなかったかという質問には、お互いの認識の違いがある場面もありましたが、それをキッカケにまちコ活動はまちづくり活動をコーディネートすることと再確認したというお話がありました。また、まちコ活動は自分ができる範囲で行うことです。市民協働課からの依頼以外では、まちコが個人的につながり活動を行っている場合があるというお話もありました。
D グループ	まちコにいつ会えるのか、申込方法を聞きました。発表内容にあった「夢ファンド」のレポートなど、活動はどこで見られるのか、困ったこと、楽しいこと、まちコ活動を行う中で、市民協働課からの依頼だけではなく自ら動くことを目指したいと話していました。
E グループ	まちコはファシリテーターだけではなく、取材・レポートの作成を行うなど、様々な活動があること。また、自分たちが行う活動は、まちコ活動と同じではないか、という話が出てきました。

2. 第２部　参加者同士が知り合う･つながる

■テーマを出し合い、グループで話し合い（進行：安部　真さん）

・第１部では、まちコの活動、ご自身の活動を紹介し合いました。第２部では、参加者同士が知り合い、つながるためにまちづくり活動で行いたいことを「テーマ出しシート」に個人で書き出し、書き出した内容から話し合うテーマを選び、グループで話し合いました。



●発表

学生がまちづくりに関わる	文化を体験できるような学びの場を考えました。令和 8 年度から、部活動が廃止になることもあり、まちづくり部を作ろうと話し合いました。地域のボランティア活動など、様々な資源を活用し、刈谷市のまちづくりを学べる場を作ろうと話しました。
まちの拠点づくり	それぞれのコミュニティがあり、そのまちごとに集まれる場所があれば良いと思っています。みんなが行きやすく、顔見知りになり、井戸端会議を重ねられる場所です。そして、互いがつながることで強みを活かし合うことができる場所です。また、このような場が地域の見守り活動のひとつになると思っています。つながり合いたい人は一定数おり、集まれる場所があると良いなと話し合いました。
刈谷いっぷく茶会	グループの中でそれぞれの得意から、刈谷の名所とお茶会を組み合わせました。名所を巡りながら、お茶をたてることをしようと話していました。お茶会では、気軽にお茶を楽しむだけではなく、名所に関する話をすること、出会いと刈谷を語ることをやってみたいと思っています。
かりや夢ファンド	地域で子ども向け活動を行っています。ですが、ボランティアでの活動であり、かりや夢ファンドの募集について聞きたい！という想いからテーマに選びました。

●感想共有

・色んな方々が活動されていること、考えていることがあると知ることができました。
・協賛金の集め方を教えていただけると良いな、と思いました。
・初めて参加し、刈谷愛に溢れる人が多く、自分が住むまちにどのようなことができるのかを考えるキッカケになりました。

■閉会（市民協働課　加藤、内藤）

・本日は、たくさんの方にご参加いただきありがとうございました。まちづくりに関する想いなどを聞くことができ、また様々なテーマが出てきたことも嬉しく思っています。今回の交流会はつながるキッカケですので、このご縁が今後のみなさまの活動につながれば幸いです。ありがとうございました。
・今後も、まちづくりステップアップ講座や、次年度にはつなぎの学び舎を開催します。ぜひご参加ください。

まちづくりコーディネーター交流会　令和６年度 第２回

まちとまちコの交流会

●日 時　2024年11月4日(月･祝)13:30～16:30
●会 場　刈谷市民ボランティア活動センター
●参加者　19名（まちコ９名、一般８名、まちコ世話人1名、市まちづくり推進課1名）
●進 行　まちコ 桑畑忠則さん
●発 表　まちコ 岡 由香さん、鈴木 勉さん
かりピース 井手口薫さん、小田麻琴さん
●タイムキープ　まちコ 鈴木小枝さん

●プログラム
1.第１部 まちとまちコの交流
2.第２部 参加者同士が知り合う･つながる

●ねらい
･刈谷市に縁ある皆さんに「まちコ」を知って頂く
･刈谷市に縁ある皆さんと「まちコ」がつながる

■開会あいさつ （市民協働課 加藤）

･まちづくりコーディネーター（まちコ）のみなさんが市民に活動を知ってもらい、つながりたいという想いから企画、準備を進めてきました。今回は、一般の方、学生のみなさまに参加していただき、まちコとの交流を通して活動が活発になれば幸いです。

第１部 まちとまちコの交流

■自己紹介（進行：桑畑忠則さん）

･「今年一番楽しかったこと」をお題に、全員で自己紹介しました。

■まちコとは？ （安部 真さん）

･まちコは、市民のみなさんがいきいきと活動ができるようにコーディネートする役割です。まちコになるためには、「つなぎの学び舎」を受講することで登録ができます（まちづくり活動を既に行っている方は活動歴に合わせて登録ができます）。まちコの活動は、住民会議のファシリテーターを務めたり、まちづくりに関心がある方同士をつないだりすることです。そのため、今回の「まちとまちコの交流会」では、まちづくり活動を実践している方と交流ができる機会にしていきたいです。

■前回交流会で話し合った「まちづくり」の進捗、成果などの事例発表（進行：原 保宏さん）

●刈谷いっぷく茶屋 初陣（岡 由香さん）

･この企画が生まれた背景は、第１回交流会にて参加者が出し合ったテーマを話し合うことから始まりました。その企画内容は、「刈谷再発見 刈谷のレトロなまちめぐり」と「刈谷の名所でどこでもお茶会」、この２つのテーマを交流会では話し合い、その後は「まちコくらぶカフェ」にて企画を進めていきました。その際に、まちコ世話人かつ刈谷西部自治会長である大野さんから、11月9日(土)に開催する「お宝さがしウォーキング」にて亀城公園のコネクドームに出展する提案をもらいました。今回の出展では、刈谷市に縁のあるみなさんとまちコがつながることができればと思っています。当日は、お茶とお菓子とともに銀座商店街の写真パネルを展示する予定です。是非、お立ち寄りください。

●まちコの実践 地区活動（鈴木 勉さん）

･私は、重原地区で地区長、保護司、重原八幡社社務所建設委員会などの活動を行っています。地区活動との出会いは、12年前。初めて重原八幡社で役を務めた際に、一生懸命取り組んだことから励ましをもらい、地区長をやりたい！とぼ

んやりと思うようになりました。それ以降、出られる地区活動にはすべて参加しました。

・地区長になり、コロナ禍の影響から活動が自粛され、人と人のつながりが希薄になりました。地区活動を活発にしたいと思っていましたが、コロナ後も活動が戻らず 2 つの活動が解散。保健推進員も人材不足から、活動が中止になり、困っていました。その際に、公民館長と重原のいきいきクラブ会長に協力してもらい、時代に合った活動を増やそうと「重原元気づくりサークル活動」を発足。ボッチャ、簡単料理、コーヒー好きが集まる野菜づくりなど5つのサークルがあります。

・元気な地域応援交付金を活用するには、住民会議を行うことが必須でした。住民会議には、まちコがファシリテーターとして派遣されます。おかげで、様々な意見が出てくる中、話し合いを円滑に進めていただくことができました。ファシリテーターは、みんなの意見を引き出し、自分以外の意見を聞き、みんなで答えを出すために手助けを行う人であると体験しました。

・重原のホームページを作成したいと決めて、多くの人に話しました。すると、桜町の防災会長から、重原地区内に防災もデジタルもできる人がいると教えてもらいました。早速連絡し、「重原を元気にしたいです！」と伝えました。容易くホームページを作ってくれ、運用もしてくれています。私は、パソコンが苦手なので、人の手を借りないとできないことがあります。色んな人の手を借り、活動を続けています。

・地区活動を行う中で、自主防災活動は必須です。防災については、これまで広い知識を持つ方が真剣に取り組み、地区の防災力、減災力を積み上げています。大野さんを筆頭に、魅力ある方と出会い、その姿勢から自己研鑽に取り組んでいます。また、子ども会会員の減少がある中で、子ども会を行いたい方と出会いました。ですが、時間が無いことが課題です。その課題に対して、どのようにサポートするのかを考えています。

・重原八幡社の社務所を建て替えるには、多くの資金が必要で、そのためには地域の方の理解と同意が必要です。住民の方に向けて説明する際に、背景を伝えること、ストーリーを伝えることが必要だと考えました。建て替え後に社務所を解放することを提案しましたが、他の役員から反対意見がありました。運営管理が必要で負担がかかることが理由でしたが、その反対意見から、自分は人の集うまちづくりを行いたいのだと再確認できました。

・まちコは、「好き」と「得意」と「できる」を活かして、まちづくりを行うと聞きます。私は、重原地区が大好きであることと、人からの協力を得ることで、まちコの実践として地区活動を行っています。

●まちの放課後「かりピース」（井手口薫さん、小田麻琴さん）

・かりピースは、2024 年 9 月に発足した、若者とまちづくり、社会人をつなぐ団体です。「カリヤクエスト」というイベントにて原案ができ、メンバーが集まり活動が始まりました。活動目的は、刈谷で刈谷の若者を盛り上げること、新たな若者のコミュニティとなることです。何か挑戦したい人、若者、社会人と出会い、自発的に行動ができる、放課後のような場所として活動したいと考えています。

・かりピースでは、3つの活動を考えています。①若者が自発的にまちづくりや刈谷に関わり行動できるようにすること。②映画鑑賞やカードゲームなどの交流を通して、様々な立場の人が出会える場をつくること。③イベント企画運営を通して、様々な若者や協力者と出会い、かりピースとして刈谷を盛り上げることです。

・現在は、1～2 週間に一度、コアメンバーで会議を行っています。今回が初めての外部での活動です。今後は刈谷市内で活動を広げるために様々なイベントに出展する等していきたいです。発足して間もないですが、かりピースと一緒に活動を行いたい方は、ぜひお声かけください。

■質疑応答

Q.「かりピース」という名前に興味があります。団体名の由来を教えてください。

A. 8月に行われたカリヤクエストは、刈谷を活発にするための話し合いの場でした。その話し合いの場で、刈谷の「かり」、まちづくりに関わりたい人同士の出会いの場、1 人では出来ないことをみんなで出来る場としてパズルのピースが合わさるように、という意味で「ピース」と付けました。

Q.「かりピース」の体制と、これからメンバーをどのように増やしていく予定ですか？

A. 現在は、コアメンバー6 名で活動を行っています。刈谷市在住は 2 名のみです。今後は、ワークショップを開催してメンバーを増やすことを考えています。自身の参加するきっかけが SNS であったため、SNS を活用していきたいです。

●感想

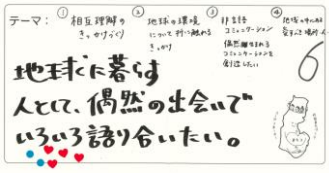
・活動を発信することで、次の活動につながっていき、もっと大きな輪になっていくと感じました。今後も、積極的に発信していただきたいと思います。お話、ありがとうございました。
・活動のお話を聞く中で、寄り添ってもらっていると感じました。若者がどうまちづくりに関わっていけるのかなと思っていましたが、お声かけいただき、みなさんと積極的に関わりたいと思いました。
・みなさんの発表を聞き、新たな刺激をもらいました。口に出して話していくことで、助けてくれる人がいることを信じていきたいです。また、若者が刈谷を好きでまちづくりに関心があることを知り、嬉しかったです。
・地域に愛着を持つ人を増やしていくことが、まちづくりにつながると感じました。

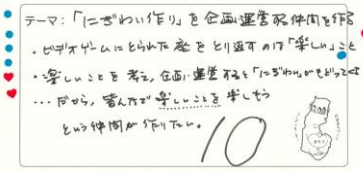
第 2 部　参加者同士が知り合う・つながる

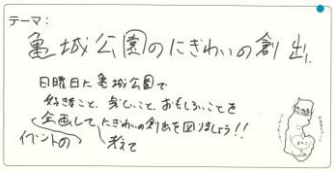
■テーマを出し合い、グループで話し合い（進行：石田彰宏さん、井手口薫さん）

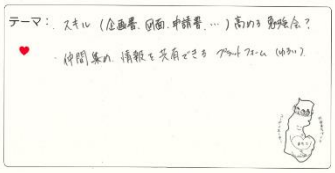
・参加者同士が知り合い、つながるために、まちづくり活動で行いたいことを「テーマ出しシート」に個人で書き出しました。個人で書き出したテーマから、話し合いたいテーマを選び、グループで話し合いを行いました。

●参加者からのテーマ案（一部抜粋）









●発表

まちづくりの仲間づくり	まちコくらぶの活動、SNS の発信など、緩やかなネットワークを作り出すことで様々な企画ができ、企画を一緒に行う人と出会い、オンラインだけではなく対面で話せる場ができるようになると良いと話し合いました。
地球に暮らす人として偶然の出会いでいろいろ語り合いたい	テーマについて、どうしてそのように思ったのかを伝えることで終了時間となりました。今回のテーマを選んだ理由として、現在、重原地区にて畑の事業と、アートプロジェクトの事業を行っています。畑は地域の１つの拠り所であること、緩やかなつながりができること、アートプロジェクトでは福祉事業所の活動としての発展だけでなく、感性を表現する１つの選択肢となれるように活動を行っています。このような活動から、今回のテーマを選びました。
ミササガパーク（その他）	ミササガパークで、クリスマスイベント、パン屋さんでイベントを行いたいと話し合いました。その際に、開催場所だけ決まりましたので、今後企画を進めていきたいと思います。

●チェックアウト（進行：桑畑忠則さん）

「今の気持ちを色で表す」をお題に、今日の感想を共有しました。

・黄色の気持ちです。自分の中の経験と光を見付けることができました。
・今日のお話を聞き、もっと活動が出来そうであると思いました。炎が燃え上がるという意味で、色は赤です。
・若葉色です。色んな方や色んな活動を聞くことができ、花咲くことができれば良いなと思います。
・たくさんの人がつながりたいと思っていることを知り、どのようにつながれるのかを考えて、七色の虹色です。
・熱い意見や情熱を感じて赤と、この想いが花咲く気持ちからピンクでもあります。

●まちコくらぶ PR（藤田佳子さん）

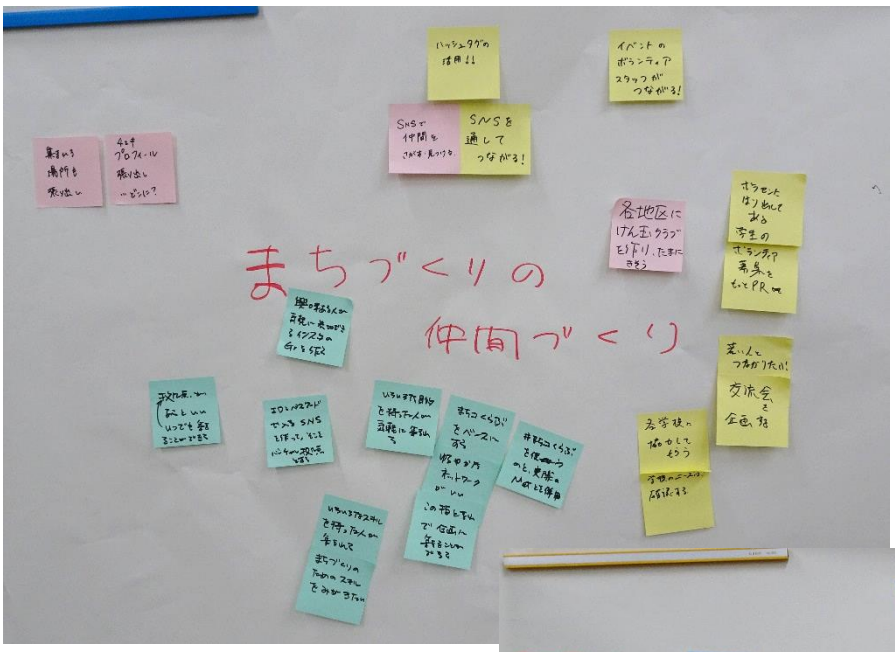
毎月第3土曜日15時～17時刈谷市民ボランティア活動センターにて開催中。

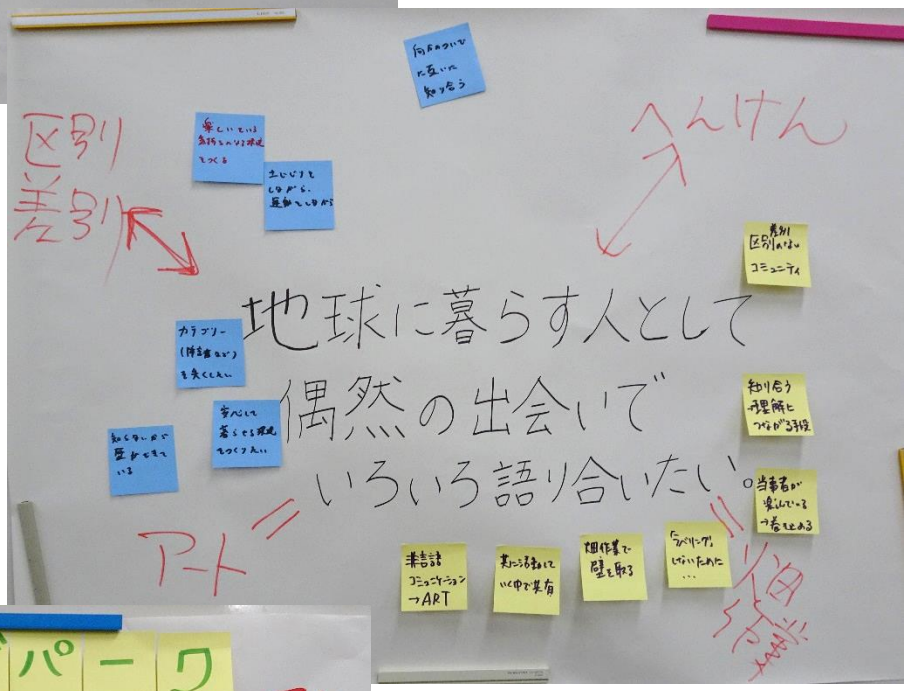
■閉会（市民協働課　加藤、和田）

12 月 14 日(土)に、まちづくりステップアップ講座

「会議のデザイン、場づくりの準備」を行います。また、次年度にはつなぎの学び舎を開催します。
ぜひご参加ください。

●成果物（第２部　参加者同士が知り合う・つながる）





つ な ぎ の 学 び 舎 ・ リ カ レ ン ト

【まちコ限定】まちコの総会をやろう！

企画会議～会議のデザイン、場づくりの準備～

2024 年 4 月 20 日(土)9：30～12：30

まちづくりコーディネーター（まちコ）の活動を市民に知ってもらい、まちコとの交流を図る場づくりを考えます。「まちコの総会（仮）」の開催を題材に、企画会議を行いながら、場のデザインについて学びます。

ヒアリング、インタビュー技術を学ぶ

2024 年 5 月 25 日(土)9：30～12：30

「相手の話を“ちゃんと”聴く」ってどういうことでしょうか？
簡単なようで、実は奥が深い「聴く」ことについて体験から学びます。ヒアリングやインタビューの準備、また心掛けることについても考えていきます。

チラシの作り方～canva（キャンバ）の使い方を学ぼう！～

2024 年6月 29 日(土)13：30～16：30

チラシ作りに便利で簡単、おすすめな「canva（キャンバ）」の使い方を学び、地域活動やまちづくりでちょっとオシャレなチラシを作ってみませんか？
★当日は、WiFi に接続可能な PC／タブレットを持参してご参加ください。

会議のデザイン、場づくりの準備

2024 年 12 月 14 日(土)13：30～16：30

会議のお悩み（一部の人しか意見を言わない、脱線して話がまとまらないなど）の多くは会議のデザインと準備で解決できます。効果的な会議の場づくりについて学びます。

【まちコ限定】 実行委員企画会議

会議のデザイン、場づくりの準備～まちコ交流会を企画しよう！～

2025 年 2 月 1 日(土) 13：30～16：30

まちコの活動を市民に知ってもらい、まちコとの交流を図る場づくりを考えます。次年度に開催する「まちコ交流会（仮）」を題材に、企画会議を行いながら、場のデザインについて学びます。

課題の整理・構造化

2025 年 3 月 1 日(土)　13：30～16：30

多様な意見が出てきたときに、どのように意見を整理するとよいでしょうか？
意見に込められた想いを引き出し、新たなアイディアを創発する整理法、課題の見える化について学びます。

地域の活動が
もっと活発に
なったらいいな！

「場づくり」のコツを
学ぶと、活動が
スムーズに進むね！

聞き上手になって
周りの人を
支えたい！

まちづくり
活動する人を
応援したい！

【会場】
刈谷市民ボランティア活動センター
（刈谷市東陽町 1-32-2）

まちづくりは、「一人の 20 歩」より、「20 人の一歩」の方が
効果も楽しさもアップします！

刈谷のひとやまちを元気にしたいと思っている人が集まって、学び&語り&交流を深め、さまざまな人や団体とつながることで、楽しみながら地域の困りごとを解決していく力を育んでいきます。
地域活動・PTA・ボランティア・学習サークルなど、まちづくり活動での実践に役立つ力を高める講座です。

全体ファシリテーター　稲葉（いなば） 久之（ひさゆき） さん

大学で国際開発学を学び、青年海外協力隊、NGO などアフリカで5年間活動。その後、国内まちづくり NPO や地方創生事業に従事し、2017 年からフリーランス・ファシリテーターとして活動。大学の非常勤講師（愛知淑徳大学、金城学院大学、日本福祉大学、南山大学、名古屋市立大学）、特定非営利活動法人アイキャン理事

まちづくりコーディネーター（つなぎびと）とは？

・まちづくりコーディネーターは、刈谷市民の誰もがいきいきと輝いて暮らせるまちにしていくためのお世話役です。
・「まちづくりを“他人ごと”にせず、“自分ごと”として取り組む人を刈谷で広げる工夫をしていくひと」「地域活動やボランティア・NPO活動等を行っている団体同士、また、企業や大学等とのつながりづくりをサポートするひと」です。刈谷市では、そんな「つなぎびと」となって、魅力的なまちづくりを進めていきたい人たちが出会い、学びあう『つなぎの学び舎』を実施しています。

参加者募集要項	
対象者	刈谷市で自治会・女性の会・子ども会・公民館活動といった地域活動や、ボランティア・NPO活動などのまちづくり活動をしている人
定　員	30 名程度　　※【まちコ限定】については、まちコ登録している方のみ受講可能です。
参加費	無料
申込方法	・所定の申込用紙に必要事項を記入して、郵送、FAX、メールまたは直接、刈谷市市民協働課へお申込みください。単発での参加申込も可能です。 ・申込用紙は、市民協働課窓口、刈谷市民ボランティア活動センターで配布しているほか、刈谷市ホームページからもダウンロードできます。 ・申込期間終了後、書類選考を行い、その結果を全員にご連絡いたします。
申込締切	★前期：5 月 12 日(日)　☆後期：12 月 1 日(日)

■申込先・問合せ先

刈谷市役所　市民協働課　〒448-8501　刈谷市東陽町 1-1
【TEL】0566-95-0002　【FAX】0566-27-9652　【E-mail】kyodo@city.kariya.lg.jp
【HP】　https://www.city.kariya.lg.jp

※この講座は、刈谷市共存・協働のまちづくり推進委員会が方針決定し、NPO 法人ボランタリーネイバーズが運営支援をしています。

資料２

共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討

【部会の協議方針】
・地域活動の活性化に向け、共存・協働により各自治会等で取り組まれるとよいことについて検討する
・課題が具体的になっている地域をモデルに取組を考える

１）ヒアリング日程
日時及び会場：令和６年 11 月 30 日（土）19 時～20 時 30 分　小山市民館
対応者：二宮地区長、前野組長
参加者（敬称略）：【まちコ】桑畑、鈴木（２名）
※5/25 まちづくりステップアップ講座「ヒアリング、インタビュー技術を学ぶ」受講者
【世話人】大野、【市民協働課】和田、【ボランタリーネイバーズ】三島、遠山

２）ヒアリング結果は、以下「テーマ４」のとおり。
※マーカー部分は、「共存・協働により取り組まれるとよいこと」の好事例や種となりうる事柄である。

テーマ４　組単位の LINE 使用で、地域の情報伝達を円滑に

地域密着型の情報伝達の仕組みである回覧板。隣人と顔を合わせる機会にもなりますが、ライフスタイル等が変化する中で回覧に時間がかかったり、情報が留まらないために後でその内容の確認がとれないといった弱点もありました。

組長さんは「デジタル化すればもっと便利になるのでは」と思い調べたところ、LINE を活用している事例を見つけました。組長就任翌月（令和 5 年 5 月）より配信を試みたところ、組内電子回覧率は１年間で８割超（令和６年には 93%）とスムーズに浸透しました。こうしてタイムリーな情報発信で利便性を高める一方、顔合わせの機会の減少を防ぐため、清掃活動を充実する工夫を行っています。

		なじみやすい地域のタイプ
小山地区恩田４組基本情報	小山地区は 5,950 世帯（全 24 組）、同地区にある恩田４組（全５班）は 128 世帯（R6.4.1 時点）。 内、自治会加入 28 世帯、準加入*27 世帯。加入 28 世帯の回覧形態は、電子のみ 23 世帯、紙のみ２世帯、両方３世帯。 （***準加入**＝アパート管理会社の一括加入で、会費納入はするが運営には携わらない。市民だよりのみの配付で回覧版は回さない）。	・組等小さな地域の単位 ・若い役員がいる ・比較的新しい地域

ポイント１　紙媒体と並行してさらっと始めた

回覧板について、「次の人に送るためじっくり見ていられない」「手元に来た時に日付が過ぎている」といった問題を感じたことがあったため、どうせ組長をするなら良いことをしたいと考えて、デジタル化に取り組みました。アプリはお金もかかり大変そうと思い、LINE を活用している事例を参考に、早速５月から開始することにしました。

地区長には実施してよいか確認の上、「電子回覧板を始めてみましたが、よかったらどうですか」という呼びかけを回覧につけて案内しました。組内には特に相談しませんでしたが、お試し的な感覚でさらっと始めたためか、反対はされませんでした。１年もかからない内に、対象世帯 28 世帯中 24 世帯が、翌年には 26 世帯の登録が進みました（93%）。しばらく抵抗感があった高齢の組員が２年目になってお子さんの働きかけで加入され、全て電子版になった班もあります。ただし、紙がよい人は、引き続き紙を選択することができるようになっています。

電子版と紙との併用で、組員が自分で選べるようにしたこと、また小さな組であったことでスムーズに進んだと感じています。

ポイント2　電子回覧板の作成・配信は短時間で可能

電子回覧板は月２回の発信（加えて、清掃などのリマインドも行う）で、プロセスは以下の通りです。②表紙づくりの文章作成に少し時間がかかりますが、毎回 30 分に満たない作業時間で、さほど負担に感じていません。

① 回覧物を預かったら、自宅でスキャンを行い、PDF データにする。

② 表紙づくり　◎スマホでも見やすいよう 12 ポイントの大きな文字にしました

（1）連絡事項（掃除の案内、ゴミ捨てルール等）

（2）回覧資料の目録

③表紙も合わせて１つのデータに。

④google ドライブにアップ

⑤LINE メッセージに配信

恩田４組で作成した LINE でのメニュー

LINE 開設について（R6.11.30 時点）

・LINE 公式アカウント無料プランを利用

・LINE ビジネス ID「恩田４組」名義で取得
（人数の多い組は、複数アカウントを持つことで送信数制限もクリアできる）

・登録情報は組長が管理

・一斉送信 200 通/月まで無料

・通常の LINE メッセージで個別のやりとりも可能。返信が必要な回覧物も対応できる（上記 200 通に含まれない）

・開封状況は確認できる

ポイント3　顔を合わせる機会づくりも考慮する

電子回覧板の効果として声があがっているのは、「過去の回覧板を見返すことができる」「自分で写真を撮る必要がなくなった」というものです。恩田４組の年間予定表も意外に好評でした。また、公園清掃の当日雨天中止について、これまでは現地に行ってみないと実施か中止か分かりませんでしたが、電子回覧板の運用により、当日朝一斉に中止連絡が可能となった、という例もありました。

一方で、電子化は、隣人同士が顔を合わせる機会が減ることにもなります。自治会は何のためにあるのかと考えた際、人と人とのつながりをつくることはやはり重要と思いました。そこで、LINE 配信と合わせて公園清掃を年２回から毎月にし、人と人が会う機会を増やしました。また、側溝の清掃も、道具を取りにきてもらうことにしました。結果的に以前より組員が会うようになり、よく話すようにもなってきました。

ポイント4　組単位 LINE の汎用性　～引継ぎ・役割分担・地域サイズが鍵～

次の組長にも引き継ぎが可能なようにマニュアルの作成をしています。ただし、誰もが今のやり方で行えるとは限りません。その場合、「PDF にする」「表紙の文章を書く」といった作業を小分けにして複数人で担えると、１人の負担が少なくなったり、協力してくれる人の範囲が広がったりすることも考えられます。

公式 LINE の活用範囲は、組単位が管理がしやすいのではないか、と感じています。組長と班長の間でやりとりができるのは便利です。また、LINE メッセージで組員と個別のやりとりができるようになっているため、時折組員から「ゴミのネットが破れている」といった連絡が届く場合もあります。組単位だとそれが良いコミュニケーションになっていますが、多数来た場合対応が追い付きません。こうした運用感覚は、地区や組の大きさによって異なるかもしれません。

若い世代の自治会運営参加、まずは声かけしてみては・・・

昨年度から恩田４組の組長と小山自治会の会計を担当していますが、会計に声が掛かったのは、年齢が若く、Excel が使えそうだと思われたことだったかもしれません。会社に勤めている年代ですが、「地域のことは誰かがやらなきゃいけないこと」と思っていたので、役を引き受けました。IT やデジタルの専門性が特にあるわけではなく、自分で調べながら進めていきました。

自治会運営に若い人に関わってもらうには、「若いから（引き受けるのは）無理だろう」と固定観念を持たずに、まずは声をかけていくことだと思います。年齢に関わらず、協力的な人はやってくれる可能性はあると思います。

小山地区恩田４組組長